

剣豪たちが通った柳生街道

奈良から柳生へ通じるこの街道は、里人や修業僧の他、新影流の上泉伊勢守秀綱、二刀流の宮本武蔵、荒木又右衛門、柳生十兵衛光厳など、歴史に名だたる剣豪たちも通った道です。今なおわらじ履きの剣豪たちが歩いていても不思議ではない感じがします。いたるところに点在する石仏、丸みを帯び苔むした石畳、小川のせせらぎ、街では味わえないひと時を求め早春から晩秋にかけてハイカーが行き交います。あなたも、剣豪気分歩いてみてはいかがでしょうか。

柳生街道（剣豪の里）コース 約9km

【柳生バス停～家老屋敷～芳徳寺～南明寺～忍辱山バス停】

円成寺（忍辱山）
柳生街道随一の名刹で、草創は平安時代に京都の円成寺を移したともいわれています。現在の堂宇は、応仁の乱（室町時代）の兵火で焼失後に再建されました。仏像ではとくに運慶（20歳ごろの作）の大日如来が有名で、表情にみずみずしさが感じられます。庭園は、平安時代の数少ない遺構です。

夜支布山口神社
こんもりした森の中に佇む延喜式内社。8月17日の大柳生太鼓踊りは、ここのお祭りです。

南明寺
なぜか気の安らぐような簡素な美しさをもつお堂です。鎌倉時代に建てられた奇棟造の古刹。本堂内には薬師・釈迦・阿弥陀の三如来を安置。

峠の茶屋
石切峠の近くにある茶店です。家の鴨居には、古めかしい鉄砲やヤリが掛けられ、武芸者が飲み代のカタにしたという、神道無念流を図解した武芸帳があります。ちかくの誓多林や大慈仙の集落の名は、インドの聖跡からつけたといわれています。

地獄谷石窟仏（聖人窟）
石を切り出したあとの洞に線刻したもので、石窟にはえた苔の緑と石仏に残る朱が、えもいわれぬ美しさを見せています。

柳生街道（滝坂の道）コース 約12km

【忍辱山バス停～滝坂の道（地獄谷）～近鉄・JR奈良駅】

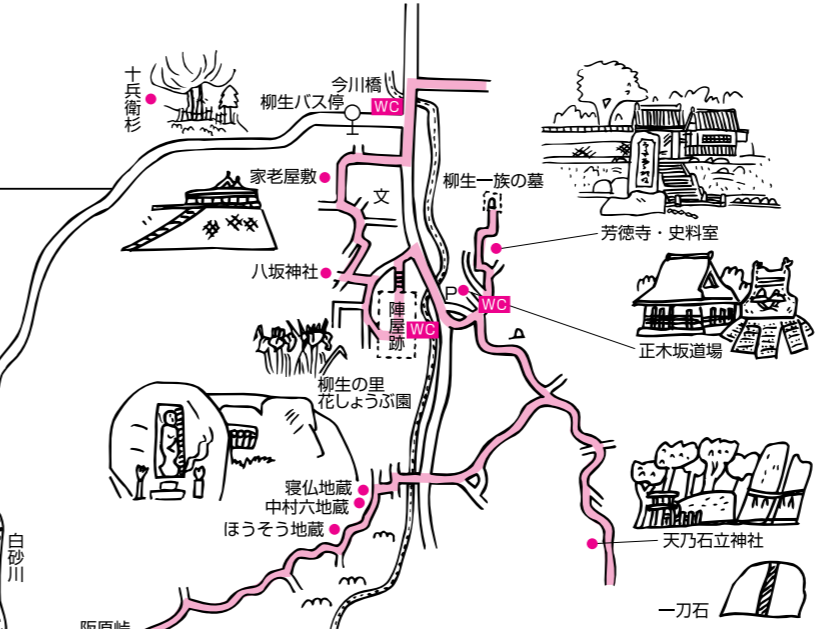
朝日観音
川向いに立つ磨崖仏です。東面して朝日に映えるのでこの名があり、まん中が弥勒、左右が地藏菩薩です。鎌倉中期の文永2年（1265）の銘が刻まれています。

夕日観音
街道から少し入った山の急斜面に立ち、夕日を受けると神々しさがさらに増す石仏です。弥勒信仰が盛んだった鎌倉時代のものです。

寝仏
道ばたのなげない石の裏側に、大日如来が横に刻まれています。近くの四方仏の一体が転がり落ちたといわれ、室町前期の作です。

首切り地藏
刀を入れたような地藏の首は、「荒木又右衛門が試し斬りした」という伝説があり古くから街道の目印でした。

- 柳生バス停より**
- 正木坂道場……………15分
 - 芳徳寺……………15分
 - 一刀石……………30分
 - ほうそう地蔵……………20分
 - 家老屋敷……………5分
 - 柳生観光協会……………5分
 - 十兵衛……………10分
 - 花しょうぶ園……………15分



天乃石立神社
屋なお暗い谷に埋まるきんちゃく岩など4つの謎の巨岩がご神体。天の岩が飛んできたという伝説もうなすける迫力です。石舟斎が天狗と誤って斬ったという一刀石も大自然の不思議をまざまざと見る思いがします。

ほうそう地蔵
ほうそう除けに作られたという高さ3mの石仏です。元応元年（1319）の銘が認められ、借金棒引きをうたった徳政一揆の銘文も興味深い。

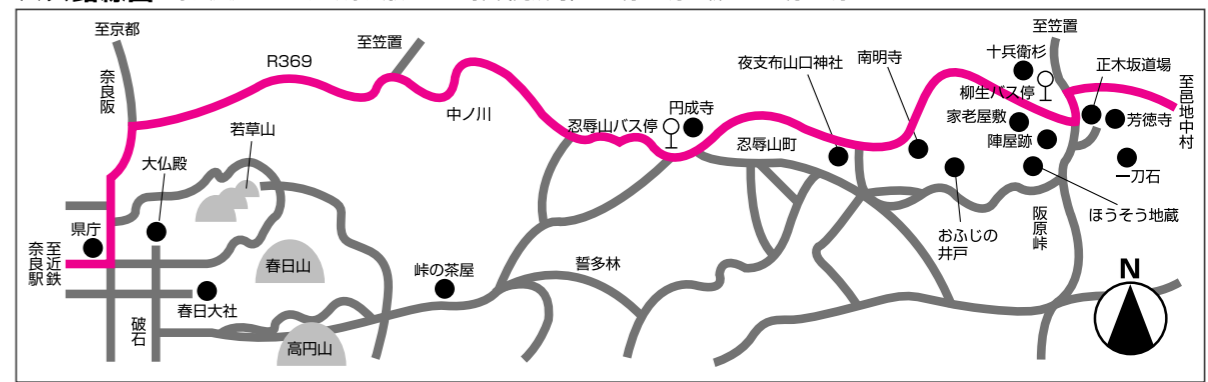
家老屋敷
江戸時代末期、柳生一万石の家老であった小山田主鈴の旧邸。現在は資料館として公開中。邸内は鴨居、屏風、間どりなど武家屋敷の様式をそのまま伝え、柳生藩士の生活やテレビ「春の坂道」のロケ風景などを紹介しています。

柳生の里花しょうぶ園
1万㎡の扇形の斜面は紫・白・黄など、色や紋様とどりの花しょうぶで埋まっています。開園＝6月上旬～下旬。開花お問合せ＝☎(0742)94-0858 ☎(0742)94-0002

柳生陣屋敷跡
柳生新陰流を生み出した石舟斎の子、宗矩が築き、明治の廃藩で消失しました。一帯は桜を中心とした花の公園となり、絶好の休憩地です。

芳徳寺
柳生家の菩提寺。境内からは柳生の里一望。本堂には宗矩、沢庵・列堂和尚の木像が祀られ、隣接の史料室では柳生藩の資料を展示しています。寺の裏には石舟斎以下柳生一族が眠る墓地も。正木坂道場も剣の里らしいたたずまいです。

バス路線図 奈良交通バス／近鉄奈良駅から忍辱山（円成寺）まで約35分。柳生まで約50分。



奈良交通テレフォンセンター／☎0742-20-3100

※このイラストマップの著作権は、近鉄営業推進本部の許諾を得ております。無断転載を禁じます。